

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \*射場天体観測所の3.5吋 Dallmeyer Astrograph の所在が判明

神戸にあった射場天体観測所の機材一切が1946年に東京天文台に寄贈されたと記述された文献があるにもかかわらず、東京天文台を前身の一つにした国立天文台にその痕跡さえなかったことに驚愕し、調査を始めて国立天文台図書室に射場天体観測所由来の星図など何点かが存在することが分かり、また、機材の一部の痕跡を発見し、引き続き機材などの調査を進めている。

2013年12月15日に、金子天文台に深くかかわった近藤秀人という方から、射場保昭氏が所有されていた天体写真儀を手元に預かっているというメールをいただいた。筆者が書いているアーカイブ室新聞692号の記事の写真8のIba listに載っているダルメイヤー写真儀に違いないというのである。近藤氏によれば、「今回のダルメイヤーについて、戦前、射場氏が所有していたものであるとする根拠は、1982年に金子氏が書かれた自然学習村の施設紹介文と私が金子氏から

#### (A) 9cmダルメイヤー写真儀

古いスタジオカメラ用レンズで焦点距離が360mm、口径が9cmという大きいレンズで、6×6版に写ります。このカメラは、戦前神戸在住の射場保昭氏が持っておられた記念すべきカメラで、ミカゲ光器の20cm用赤道儀に載っており、15cmF6.5の反射が案内鏡になっています。

写真1

名前な存在であったようだ。東京天文台の広瀬秀雄一派の掩蔽観測にも一役買った存在であったらしい。金子天文台については、アマチュア天文家の皆さんに譲ることにして、今回は金子天文台に射場天体観測所の機材の一つがあったという事実である。写真2がダルメイヤー天体写真儀である。写真には結露防止のフードが一緒に写っているが、このフード部分は金子氏が細工されたものであろうというのが、近藤氏の見立てである。レンズ部分の写真が写真3である。

「以前は射場氏の所有」と聞いていたことから、ほぼ間違いないと思います。」とあり、写真数点と金子氏の書かれた紹介分のコピー(写真1)が添えられていた。

金子天文台という存在を筆者は全く知らなかったが、マチュア天文家の間では有

写真2





写真 3

刻印の部分が写真 4 である。



写真 4

写真で見ると、その重厚さがうかがえる。このレンズが記載された Iba List の Astrograph の項が写真 5 である。写真 5 の下から 2 行目に記載されたものが 3 吋半ダルメイヤーである。

Kobe.	Y. Iba	Observatory.	8 $\frac{1}{2}$ "	F 5 Mirror, Portable Equatorial.	S. Kibe. Alminized
Kobe.	Y. Iba	Observatory.	6 $\frac{1}{2}$ "	F 3 Petzval.	Astrograph. Voigtlander.
Kobe.	Y. Iba	Observatory.	5 $\frac{1}{2}$ "	F 3.4 Portrait.	Astrograph. Hermagis.
Kobe.	Y. Iba	Observatory.	5 $\frac{1}{2}$ "	F 4.5 Helier.	7 $\frac{1}{8}$ " Refractor. Voigtlander.
Kobe.	Y. Iba	Observatory.	4 $\frac{1}{2}$ "	F 4.5 Tessar.	--do-- Zeiss.
Kobe.	Y. Iba	Observatory.	4 $\frac{1}{2}$ "	F 5. Tessar.	Astrograph. Zeiss.
Kobe.	Y. Iba	Observatory.	3 $\frac{1}{2}$ "	F 4 Portrait.	In reserve. Dallmeyer.
Kobe.	Y. Iba	Observatory.	3"	F 5.5 Dogmar.	--do-- Goerz.

写真 5

金子天文台にあったこの3吋半ダルメイヤールレンズと考えると間違いのないと思われる。アーカイブ新聞を書き始めて6年になるが、このように情報を寄せていただけるようになったことが非常にうれしい限りである。

12月29日には、金子天文台の仲間であった伊藤昌尚氏が国立天文台を訪ねてくれ、金子天文台の金子功氏が発行されていた「山村通信」という冊子をお持ちいただいた。

「すばる」建設中、ハワイにいて「山頂見聞録」を書き、今、このように「アーカイブ新聞」を書いている筆者には、何やら親しみを感じるのである。

この3吋半ダルメイヤールレンズは国立天文台にお譲りいただけることになり、2014年に開催される京都大学総合博物館の射場保昭展に出品できると思っている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)